

和歌山県の150年



明治9年 初代県庁舎建設
 和歌山・田辺・新宮3県と旧高野山領を統合し、和歌山県設置。今日の和歌山県が誕生。
 明治4年
 第1回県会開会
 議員総数43人、初代議長は濱口儀兵衛(梧陵)
 明治12年
 トルコ軍艦エルトゥールル号が大島沖で遭難
 大島島民の救助活動で69名救出
 明治23年
 南海鉄道(現南海電気鉄道)(難波～和歌山市)が全線開通
 和歌山市で電話開通
 明治36年
 第1回国勢調査
 県人口は約75万人、全国で第33位
 大正9年
 阪和電気鉄道(東和歌山「現和歌山駅」～天王寺)全線開通
 紀伊半島南部が吉野熊野国立公園に指定される
 前畑秀子、ベルリンオリンピックピック女子平泳ぎ200mで優勝、日本人女性初の金メダル
 昭和5年
 和歌山県庁舎(現庁舎本館)が現在地へ新築移転
 昭和11年
 和歌山市大空襲、死者1,212人(※)、和歌山城焼失(※)和歌山市庶務課事務報告書による数値。
 昭和20年
 初の民選知事に小野真次が当選
 昭和22年
 国立和歌山大学設置
 湯川秀樹に日本人初のノーベル賞(物理学賞)
 昭和24年
 7.18水害により、死者行方不明者千人超
 和歌山城再建
 昭和28年
 紀勢本線に特急くろしお号新設
 昭和33年
 南紀白浜空港完成
 白浜～東京間に定期便を就航
 昭和40年
 第26回国民体育大会「黒潮国体」開催
 昭和43年
 阪和自動車道開通(阪南IC～海南IC)
 昭和46年
 県立箕島高等学校野球部が甲子園で春夏連覇達成
 昭和49年
 和歌山マリナーシティが完成し、「世界リゾート博」開催
 昭和54年
 JAPANEXPO「南紀熊野体験博」開催
 「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコ世界遺産に登録
 平成の市町村合併で9市20町1村に
 紀伊半島大水害により死者行方不明者61人
 第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」開催
 第15回国民障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」開催
 「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に認定
 第36回国民文化祭「わかやま2021」、第21回国民障害者芸術文化祭わかやま大会「紀の国わかやま文化祭2021」開催
 11月22日 和歌山県誕生150年!

あゆみ 和歌山県150年と県民の友1000号の

令和3年
 平成27年
 平成23年
 平成18年
 平成16年
 平成11年
 平成6年

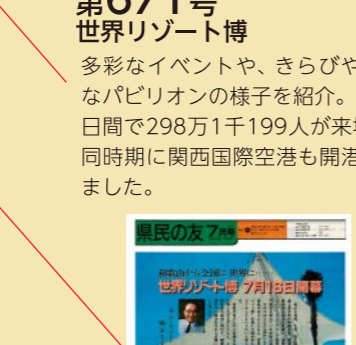
第998号
 国内最大の文化の祭典
 開会・閉会式や県内各地で開催される文化事業について紹介し、本県が文化一色に染まる様子を表現しています。



第671号
 世界リゾート博
 多彩なイベントや、きらびやかなパビリオンの様子を紹介。72日間で298万1千199人が来場。同時期に関西国際空港も開港しました。



第879号
 紀伊半島大水害
 「まけるな!!和歌山」をスローガンに、復旧・復興に向けた取組を紹介するとともに、災害時の人権配慮について呼びかけています。



第917号
 紀の国わかやま国体・大会開催
 躍動感のある写真で大会への気運を盛り上げています。紀の国わかやま国体では男女総合優勝を果たし、天皇杯を獲得しました。



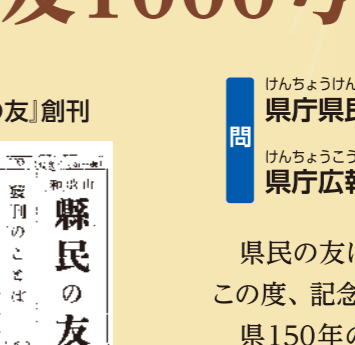
第193号
 相次ぐ大水害
 7月18日、県内を襲った大豪雨。死者・行方不明者が千人を超える大惨事の中でも、復興に向けて立ち上がる県民の様子を伝えています。



第792号
 紀伊山地の霊場と参詣道
 世界遺産登録を祝うとともに「これはゴールでなく、未来につなぐスタート」と抱負を掲載。文化的景観を主役とした、世界でも類を見ない資産として評価されています。



第1号
 県広報紙「県民の友」創刊
 県と県民を結び、県民の熱意によって健全に育成されることを切望する旨の小野知事の発刊の言葉で始まっています。1部40銭で販売。「県民の友(懸民の友)」は創刊当時から引き継がれている伝統ある名前です。



県民の友は昭和22年9月21日に創刊され、この度、記念すべき1000号を迎えました。県150年の歴史とともに、当時の写真や記事などを紹介しながら振り返ってみます。



親子3代で県民の友を読む様子

けんちょうけんみんせいかつか
県庁県民生活課 ☎073-441-2598
 けんちょうこうほうか
県庁広報課 ☎073-441-2032